

決算説明会

2026年6月期

2026年8月21日



証券コード
5530

目次

- 01 - 会社紹介
- 02 - 2026年6月期 決算報告
- 03 - 2027年6月期-2029年6月期 中期経営計画
- 04 - 2027年6月期 業績及び配当予想

01

会社紹介

会社概要

会 社 名	日本システムバンク株式会社
設 立	1996年7月10日
資 本 金	5億8,551万円（2026年6月末時点）
売 上 高	80億9,445万円（2026年6月期 グループ連結）
従 業 員 数	232名（2026年6月末時点）
事 業 内 容	コインパーキング事業 プロパティマネジメント事業
本 社 所 在 地	福井県福井市中央3-5-21 東京都渋谷区渋谷1-7-5
支 店 所 在 地	市川市、町田市、さいたま市、横浜市、長野市、富山市、 金沢市、福井市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、 広島市、福岡市
グ ル ー プ 会 社	ノルテパーク株式会社(札幌市) システムパーク株式会社(仙台市) イーアド株式会社(福井市)



安全・安心・快適な駐車場づくりを推進し、
より多くのお客様にとっての
「First Choice」を目指す。

事業概要

コインパーキング(CP)事業とプロパティマネジメント(PM)事業の2セグメント体制。主力のCP事業では、自らCPを経営する「CP運営ビジネス」と、CPシステムの販売・保守を行う「CPシステム販売保守ビジネス」を展開

コインパーキング事業

CP運営ビジネス



- 土地を借り上げ、直営駐車場として運営

CPシステム販売保守ビジネス



- ニーズに応じた機器の選定・造成工事
- システム保守・コールセンターサービスの提供

プロパティマネジメント事業



- テナントビル賃貸ビジネス

連結売上高※ 構成

98.7%

1.3%

管理駐車場 構成

件数※

18.8%(1,342件)

81.2%(5,797件)

車室数※

15.2%(23,336車室)

84.8%(130,242車室)

※ 2026年6月期実績。決算短信における報告セグメントに占める割合

02

2026年6月期 決算報告

決算ハイライト(連結)

売上高

80.9億円

増減率 +2.8%

営業利益

5.0億円

増減率 +18.2%

親会社株主に 帰属する 当期純利益

3.0億円

増減率 +22.7%

外部環境

- ・ 良好な雇用所得環境が続く中、娯楽関連を中心にサービス消費が堅調となり個人消費は緩やかに回復
- ・ 企業では人手不足やDX化等の課題解決に向けた積極投資と、賃上げの継続等を背景に価格転嫁が進展

各事業への影響

CP運営

消費者および事業者の外出機会が定着し、コインパーキングの稼働は堅調に推移

CPシステム 販売保守

コインパーキングの堅調な稼働を背景に、駐車場運営事業者は新規開設に対する積極姿勢を維持。また、キャッシュレス決済への対応等に向けた設備の更新が増加

PM

経済の緩やかな回復により需要が安定し、所有する賃貸ビルの入居率は堅調に推移。ポートフォリオの最適化を目的に一部の賃貸物件を譲渡したことで、賃貸収入は減少

連結経営成績

前年同期比では増収増益を確保するも、直営駐車場および駐輪場に係る資産除去債務の追加計上、プロパティマネジメント事業およびその他事業で減損損失を計上したことで、利益面では2026年5月に公表した通期連結業績予想を下回る

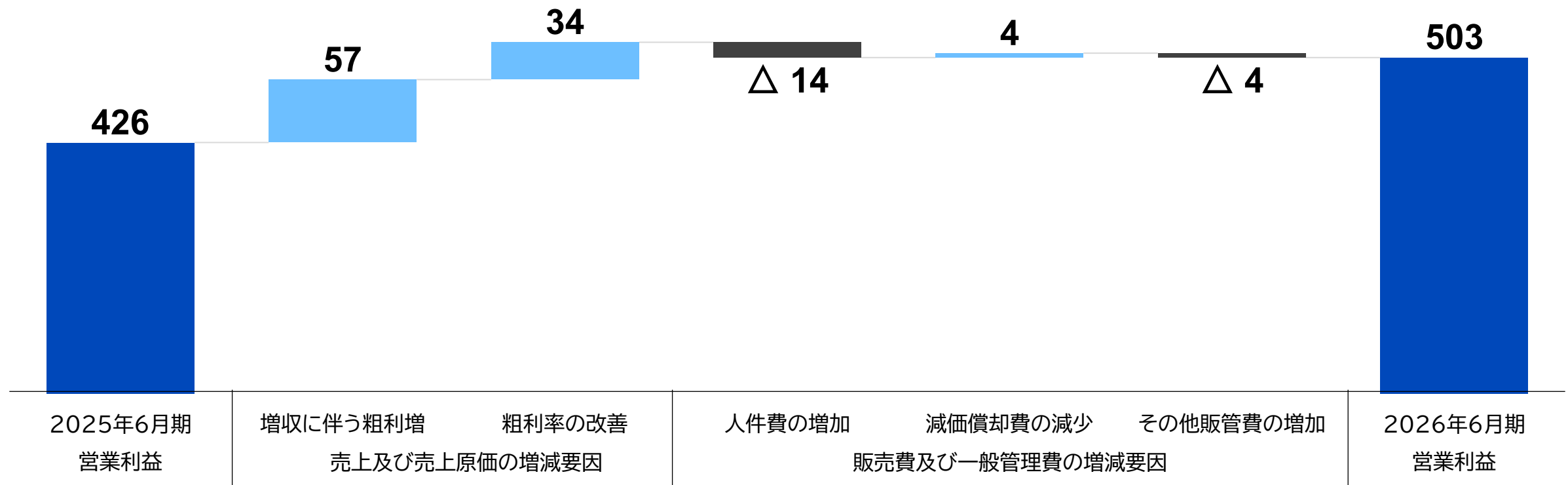
	2025年6月期	2026年6月期		増減率 (増減額)	2026年6月期 計画※1	計画比
		実績	売上比			
売上高	7,876	8,094	—	+2.8% (+218)	8,090	100.0%
営業利益	426	503	6.2%	+18.2% (+77)	570	88.2%
経常利益	416	481	5.9%	+15.7% (+65)	548	87.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	247	303	3.7%	+22.7% (+56)	354	85.6%
1株当たり当期純利益※2	107.89円	132.34円	—	(+24.45円)	154.86円	△22.52円
自己資本当期純利益率 (ROE)	10.4%	11.8%	—	+1.4pt	-	-

※1 2026年5月15日に公表した「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に基づく数値です
※2 2025年7月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行ったため、1株当たり当期純利益の表示は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定した数値です

連結営業利益 増減分析

直営駐車場・駐輪場および管理受託駐車場・駐輪場がいずれも堅調に増加。駐車場システムの販売においては機器の更新需要が好調であるなど、コインパーキング事業における増収効果で人件費等の増加分を吸収して増益

(百万円)



連結貸借対照表

中長期的な成長に向けてコインパーキング機器および事業用地の取得を行った一方、賃貸ビルの売却を行い固定資産は減少。自己資本比率は37%へ向上し、DEレシオは1倍を切るなど、財務体質が一層改善

(百万円)

	2025年 6月期	2026年 6月期	増減額
流動資産	2,383	2,642	+259
現預金	1,527	1,790	+263
売掛金・ 前払費用	751	691	△60
棚卸資産	85	100	+15
固定資産	4,728	4,625	△103
有形固定資産	4,298	4,225	△73
建物及び構築物	771	697	△74
機械装置及び運搬具	541	601	+60
土地	2,851	2,784	△67
無形固定資産	102	81	△21
投資その他の資産	327	318	△9
資産合計	7,111	7,268	+157

	2025年 6月期	2026年 6月期	増減額
流動負債	1,920	1,894	△26
買掛金・未払費用	557	409	△148
未払法人税等	77	149	+72
長期借入金 (1年以内返済)	625	637	+12
賞与引当金	114	118	+4
固定資産撤去費用引当金	-	34	+34
固定負債	2,736	2,683	△53
長期借入金	2,063	1,959	△104
資産除去債務	572	630	+58
純資産	2,455	2,690	+235
利益剰余金	1,207	1,437	+230
負債・純資産合計	7,111	7,268	+157
自己資本比率	34.5%	37.0%	+2.5pt
有利子負債	2,694	2,597	△97
DEレシオ	1.10倍	0.97倍	△0.13倍

連結キャッシュ・フロー計算書

コインパーキング事業の成長に向けた設備投資を継続する一方で資産ポートフォリオの見直しを積極的に推進。
FCFを長期借入金の返済および株主還元に充当

	2025年6月期	2026年6月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	590	714	+124
税金等調整前当期純利益	398	484	
減価償却費	433	460	
事業譲渡損益(△は益)	-	△33	
固定資産撤去費用引当金の増減額(△は減少)	-	34	
売上債権の増減額(△は増加)	△11	65	
棚卸資産の増減額(△は増加)	14	△59	
仕入債務の増減額(△は減少)	△54	△144	
未払消費税等の増減額(△は減少)	△36	16	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△515	△321	+194
定期預金の預入による支出	△60	△160	
定期預金の払戻による収入	-	120	
投資有価証券の売却による収入	6	51	
有形固定資産の取得による支出	△618	△564	
有形固定資産の売却による収入	238	199	
無形固定資産の取得による支出	△62	△7	
事業譲渡による収入	-	51	
フリー・キャッシュ・フロー	74	393	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2	△170	△168
長期借入れによる収入	700	700	
長期借入の返済による支出	△604	△791	
配当金の支払額	△73	△73	
現金及び現金同等物の残高	1,467	1,690	

(百万円)

CP機器・土地を取得 (機械装置の増加)

- ・直営駐車場・駐輪場の新規開設
- ・既存駐車場のフラップレス化
- ・キャッシュレス決済端末の設置 等

PM事業の物件譲渡

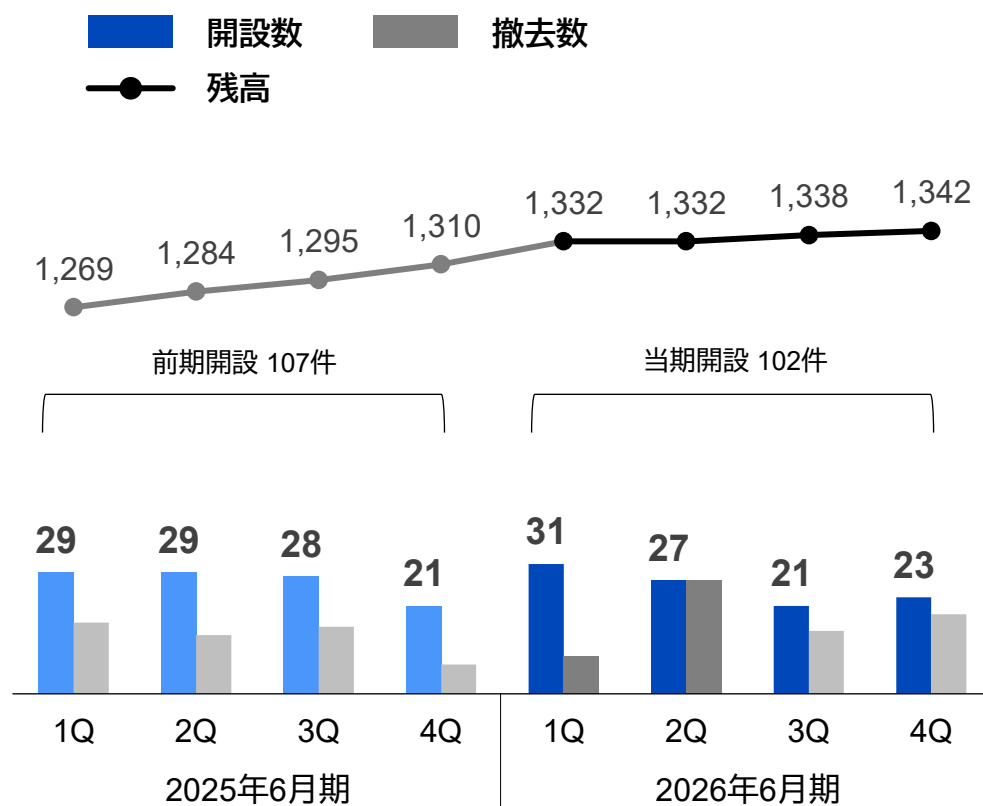
函館地区コインパーキン グ事業の譲渡

駐車場・駐輪場の開設状況等

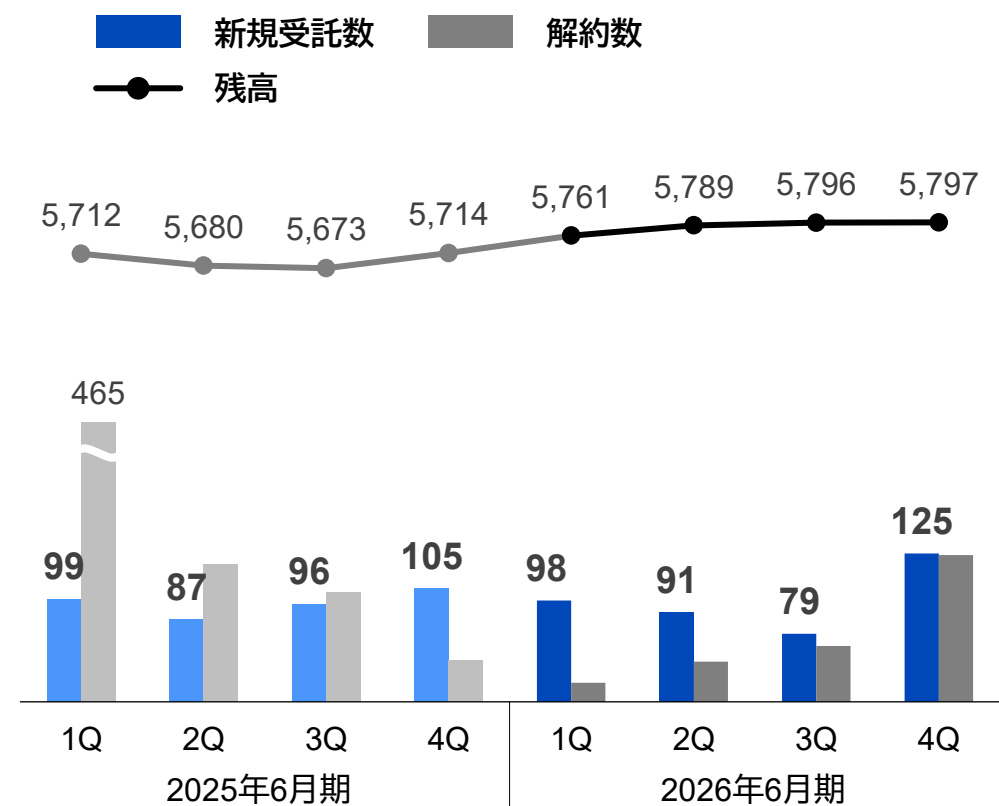
直営駐車場・駐輪場の残高は、北海道(道央)・東北・北陸を中心に開設が進み増加。

管理受託駐車場・駐輪場の残高は、新規受託数は横ばいも大口顧客の解約の影響が緩和したことで増加

直営駐車場・駐輪場の開設数・撤去数および残高



管理受託駐車場・駐輪場の新規受託数・解約数および残高



03

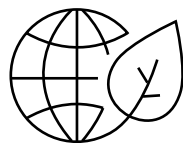
2027年6月期-2029年6月期 中期経営計画

取り巻く環境と目指す姿

事業環境の変化を捉えつつ、企業理念と「選ばれる駐車場づくり」を更に追及した経営を目指す

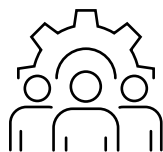
社会課題(外部環境)

- ・ 地球環境保全・災害対策
- ・ 行動様式の変化
- ・ CASE
- ・ 中東情勢
- ・ 少子高齢化・人手不足



経営課題(内部環境)

- ・ 社会価値の追求
- ・ 品質の維持・向上
- ・ 新サービス開発
- ・ 人財育成
- ・ コーポレートガバナンス



“

企業理念

喜びの種をまこう 幸せの種をまこう

”

中期経営計画

安全・安心・快適な駐車場づくりを推進し、
より多くのお客様にとっての
「First Choice」を目指す。

安心

First Choice
選ばれる駐車場

安全

快適

定量目標

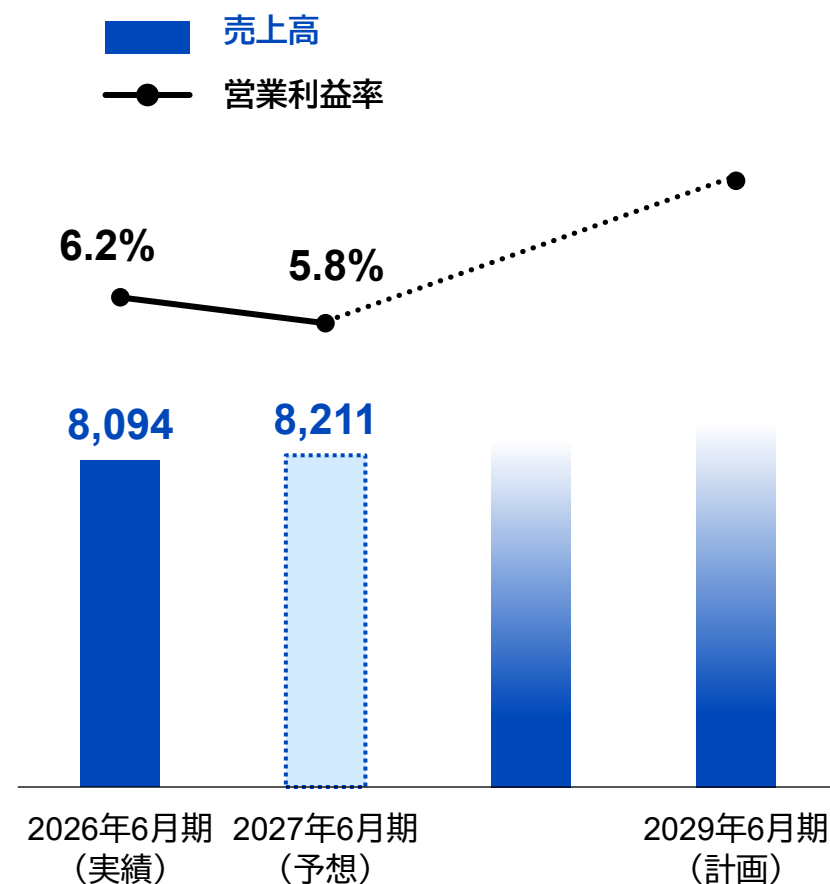
中計期間中に営業利益率6.5%以上への改善を目標に設定。

ROE・ROAも同様に段階的に改善し、より高効率、高回転な経営体制を目指す

(百万円)

	2026年6月期 実績	2027年6月期 目標	前期比 (増減額)
売上高	8,094	8,211	+1.4% (+117)
売上総利益	2,158	2,165	+0.0% (+7)
同利益率	26.7%	26.4%	△0.3pt
営業利益	503	480	△4.6% (△23)
同利益率	6.2%	5.8%	△0.4pt
ROE 自己資本当期純利益率	11.8%	11.6%	△0.2pt
ROA 総資産経常利益率	6.7%	6.3%	△0.4pt

最終年度目標イメージ



基本方針

コインパーキング事業の持続的成長に向けた、強みを活かした直営駐車場の展開と駐車場運営事業者サポート体制の強化
環境変化に柔軟に対応し、堅実な内部統制と先進的な事業運営の両立

事業戦略

- 01 -

CP事業の拡大

- 直営駐車場及び管理受託駐車場を軸とするストックビジネスの強化
- 顧客ニーズをとらえた機器・システム等の最適化と新サービスの開発
- 土地オーナー向け機器販売の強化

- 02 -

サービス品質の向上

- 自社運営コールセンターと全国保守ネットワークを活用した運営サポートの強化
- メンテナンススタッフの資格取得推進による保守点検作業の品質向上
- カメラを起点とした管理品質向上(防犯・不正防止・故障発見等)

経営基盤強化

- 03 -

コーポレートガバナンス の強化

- 社外役員の多様性・専門性を活かした意思決定の高度化
- 証憑類のペーパーレス・データ化に向けたシステム整備・最適化
- DXを見据えたITによるリスクマネジメント

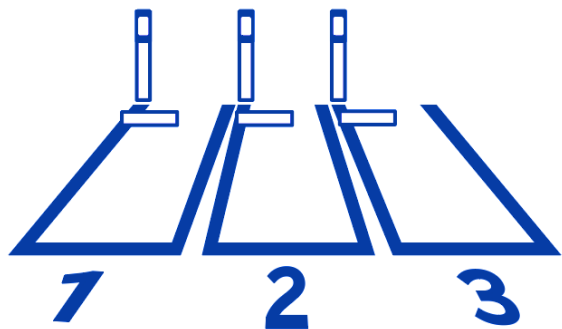
「3つの“Less”」で選ばれる駐車場づくりを推進

事業戦略においては引き続き「3つの“Less”」を推進。

全国的にコインパーキングが堅調な稼働を見せる中、より多くのお客様に選ばれる安全・安心・快適な駐車場の普及を図る

FlapLess

フラップレス



駐車スペースが広くフラットで
駐車、乗降車のときに安全

CashLess

キャッシュレス



硬貨つまりなどが起こらず
利用者に安心感を提供

StressLess

ストレスレス



高品質な保守と電話対応で
快適な利用をサポート

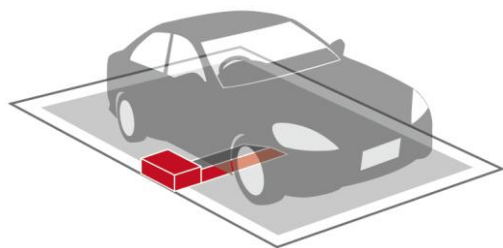
主力事業の拡大 – フラップレスの推進

広スペースで自然災害に強く、利用者に安全性と安心感を提供するフラップレス式駐車場を推進。
中期的に直営駐車場の50%をフラップレス化する目標に向け、新規開設および機器の更新が予定通り進捗

FlapLess

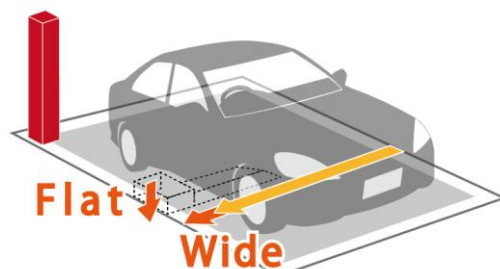
フラップレス

フラップ式駐車場
(普及率:高)



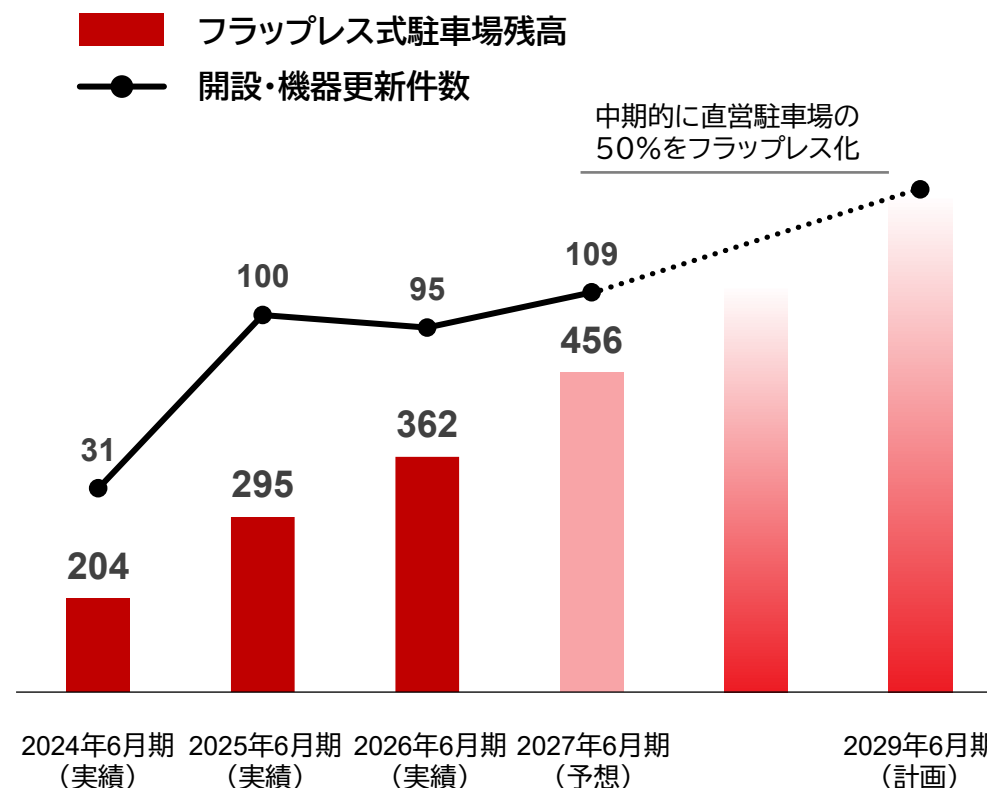
- ・フラップの幅分だけ駐車スペースが狭い
- ・機器故障時は出庫できないケースがあるためクレーム化しやすい

フラップレス式駐車場
(普及率:低)



- ・広スペースで駐車・乗降車が容易
- ・降雪や冠水等の自然災害に強い
- ・機器故障時には出庫を優先することもできる

■ 直営駐車場におけるフラップレス式駐車場の推移



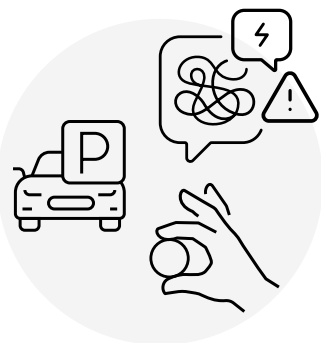
主力事業の拡大 – キャッシュレスの推進①

利便性を高める機器・サービスの強化を図る上で、当期も駐車料金のキャッシュレス決済端末の導入を継続。
直営駐車場・駐輪場におけるキャッシュレス決済率は25%に迫り、中期目標に向けて着実に進捗

CashLess

キャッシュレス

現金精算の場合



- 硬貨つまり、識別不良などが起きることがありクレーム化しやすい

キャッシュレス決済の場合

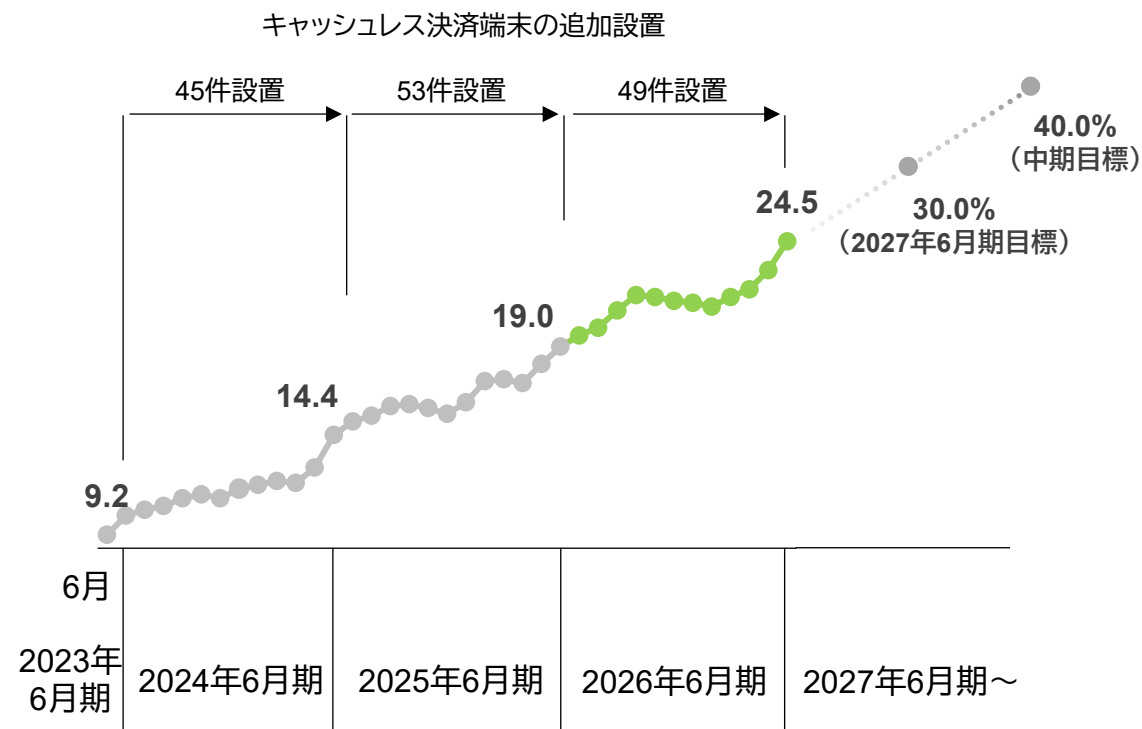


- キャッシュレス化によってトラブルの発生を削減

■ キャッシュレス決済率の推移※

※ 直営駐車場・駐輪場の売上高に占めるキャッシュレス決済額の割合

—●— キャッシュレス決済率



主力事業の拡大 – キャッシュレスの推進②

駐車場検索・決済アプリ「SmooPA」は得意先の駐車場への導入が順調に進み、決済件数・アクティブユーザー数が大きく伸長。
中期目標を上方修正し、引き続き更なる成長を目指す

CashLess

キャッシュレス

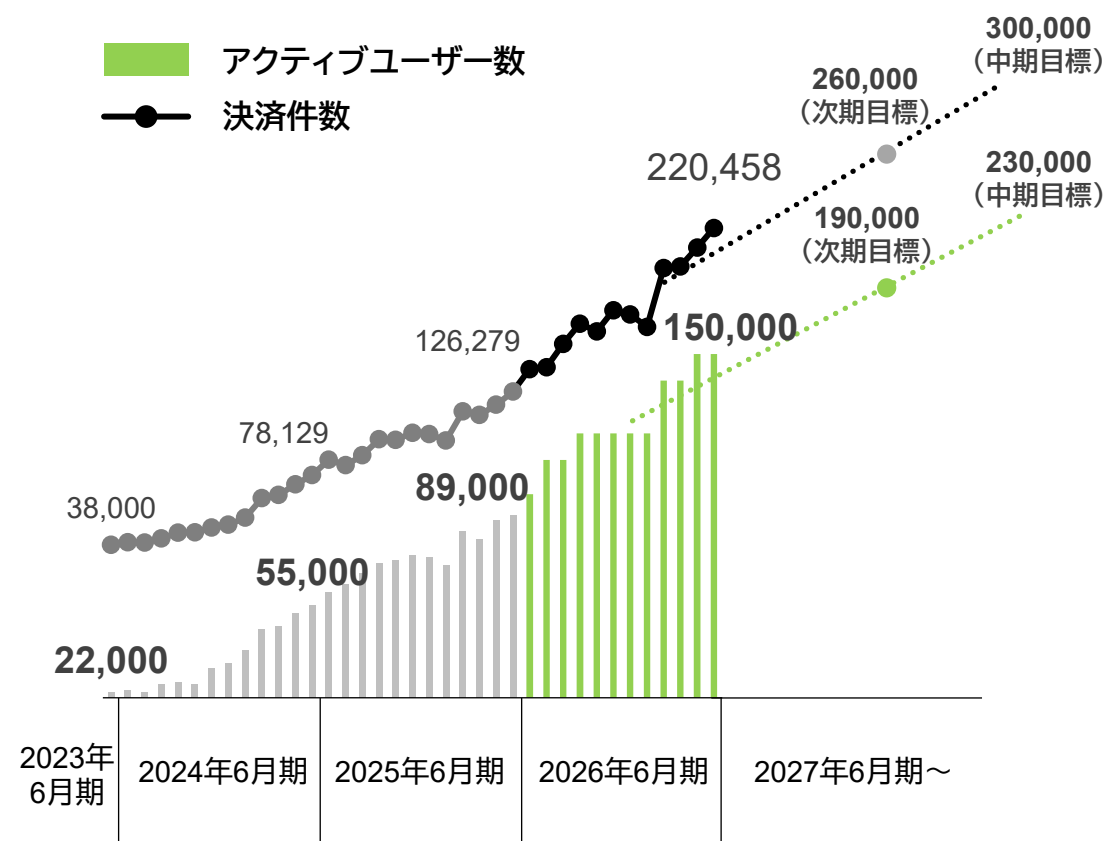


駐車場検索&決済アプリ
SmooPA(スムーパ)

SmooPA

- ・ 空いている駐車場を一発検索
- ・ アプリ上でキャッシュレス決済
- ・ 法人一括請求サービスを利用すれば経費精算の手間も削減

SmooPAのアクティブユーザー数および決済件数



サービス品質の向上 – ストレスレス駐車場の実現

利用者・オーナーの双方にとってストレスのない安全・安心・快適な駐車場の運営に向け、社員教育を強化。
メンテナンススタッフでは新規の電気工事士資格取得者が1名となり、社員の入れ替わりの影響もあって資格保有率は低下

StressLess

ストレスレス

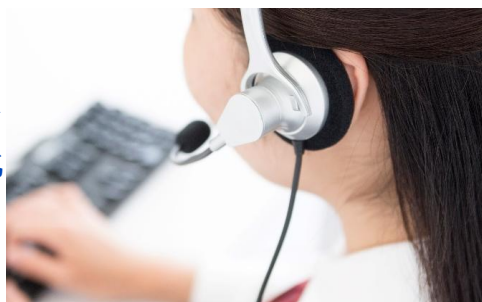
有資格者による
定期点検・早期復旧



- ・メンテナンススタッフの資格取得を推進し、保守点検作業の品質を高め故障を未然に防止

連携強化

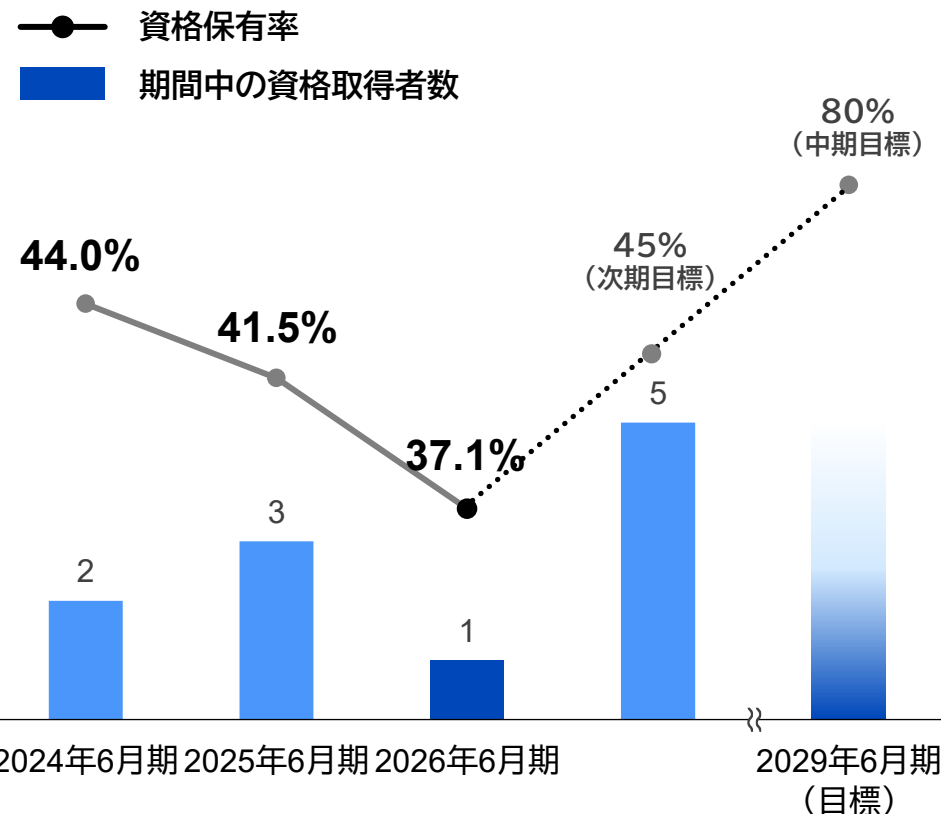
もしもの時もつながりやすい
コールセンター



- ・一次窓口となるコールセンターの品質維持
- ・トラブル未然防止による入電数減

第二種電気工事士の資格保有率の推移※

※ メンテナンススタッフに占める有資格者の割合



設備投資計画

本中計で創出するキャッシュを、事業成長を支える設備投資に重点的に配分

中計期間
創出キャッシュ

内部留保

成長のための
設備投資

IT投資

方針

主力のコインパーキング事業の更なる拡大に必要な設備投資・サービス開発を中心に資金を振りむける

項目	キャッシュ配分
フラップレス駐車場・キャッシュレス決済機	約 80%
老朽設備のリフレッシュ	約 10%
新機器開発・研究	約 5%
SmooPAの拡販・新機能テスト	約 5%

方針

内部統制の強化と業務効率化を実現するシステムやITツールを導入する

主な取組

- ・証憑類のペーパーレス・データ化に向けたシステムの整備、最適化
- ・ITを活用した各種リスクへの対応 ※災害リスク、不正および犯罪リスク、法令違反リスク等
- ・既存システム改修

サステナビリティ推進

働きやすい職場環境の実現や、本社のある福井への貢献を継続。今後も事業活動を通じた地方創生・社会への貢献を目指す

子育てサポート企業 認定



- ・「次世代育成 支援対策推進法」に基づき、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備に取り組んでいる事業主として厚生労働大臣より認定。
- ・育児と仕事の両立に取り組む社員を支援

当期の
主な実績

育児休暇の取得 7名(うち男性 5名)

地域産業の活性化



- ・福井で活躍している作家の工芸作品を扱う店舗。
地域産業活性化や伝統文化承継を図る

個展形式の販売イベント 15回開催
参加いただいた作家 50名

2027年6月期 業績及び配当予想

業績予想

重点地域における直営駐車場・駐輪場の開設と都市圏での駐車場システム販売・管理受託を両輪として増収を計画。
営業利益以下は、人件費や売上拡大に向けた設備投資の増加等によって減少予想

(百万円)

	2026年6月期 実績		2027年6月期 予想		増減率(増減額)	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	4,017	8,094	4,099	8,211	+2.0% (+82)	+1.5% (+117)
営業利益	319	503	284	480	△10.9% (△35)	△4.6% (△23)
経常利益	307	481	274	459	△10.7% (△33)	△4.7% (△22)
親会社株主に帰属 する当期純利益	244	303	210	326	△13.7% (△34)	+7.6% (+23)

配当予想

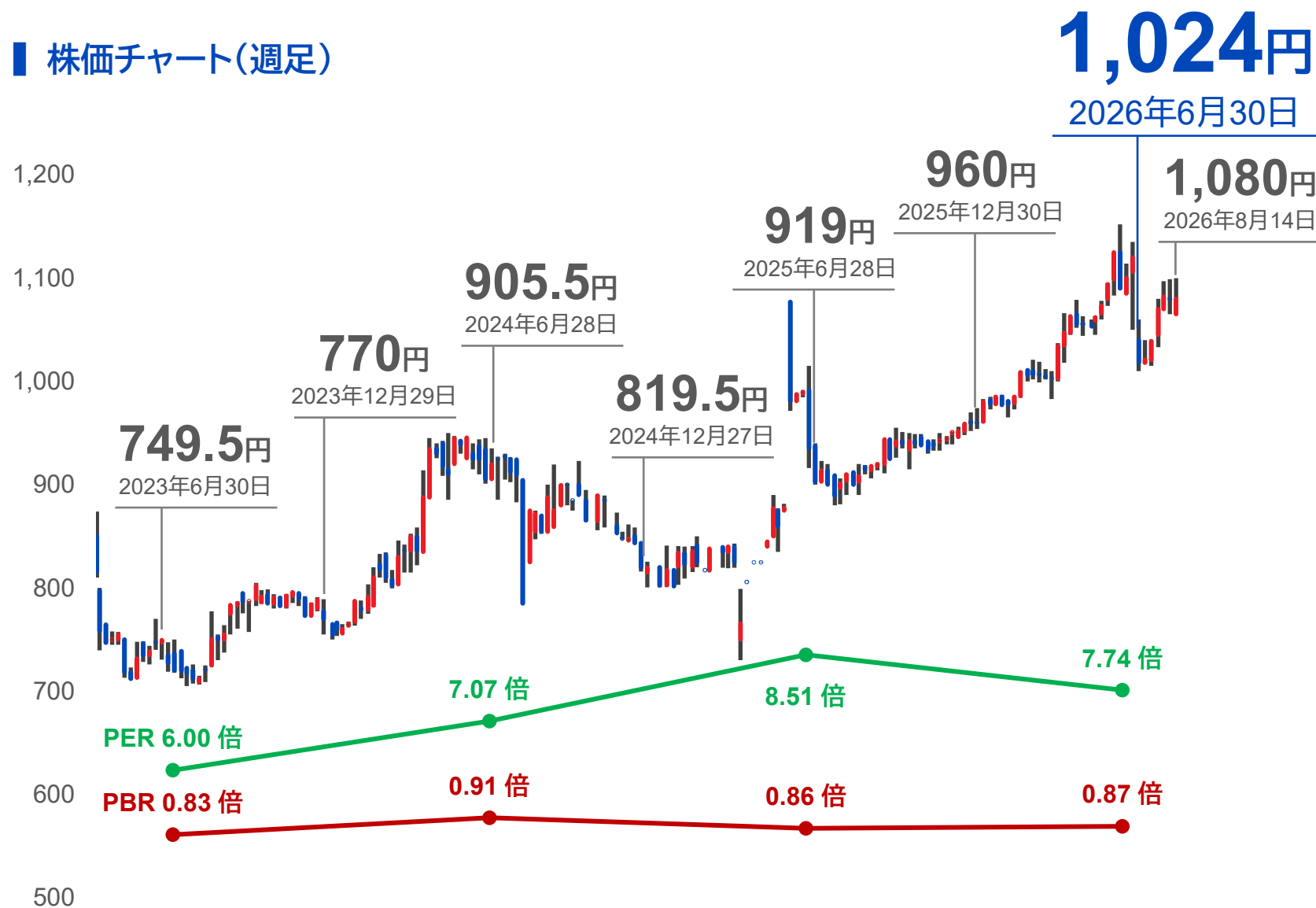
設備投資と財務体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定配当を継続して実施

	2025年6月期	2026年6月期	2027年6月期 予想
1株当たり配当金(円)	64.0※	43.0	45.0
中間配当金	24.0※	12.0	15.0
期末配当金 (内、創業30周年記念配当)	40.0※	31.0 (10.0)	30.0
配当金総額(百万円)	73	98	-
配当性向	29.7%	32.5%	31.6%

※ 2025年6月期の配当金は、2025年7月1日付の株式分割(普通株式1株につき2株の割合で分割)実施前の実際の配当額を記載しています

參考資料

■ 株価チャート(週足)



■ PER - 株価収益率 -

7.74倍

EPS - 1株当たり当期純利益 -

132.34円

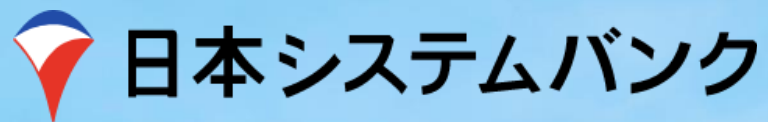
■ PBR - 株価純資産倍率 -

0.87倍

BPS - 1株当たり純資産 -

1,174.59円

(各指標は2026年6月期末時点のもの)



免責事項

本資料における当社および当社グループの今後の計画、見通し、戦略等の将来情報に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報から合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績等の結果は、想定と大きく異なる可能性があります。これら将来情報に関する記述には、多様なリスクや不確実性が内在しています。なお、本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。